

地質の目でみる 地震災害の連鎖

東北地方太平洋沖地震によって引き起こされた複合的災害の解明



平成 23 年 3 月 11 日に、東北地方太平洋沖で国内観測史上最大の地震が発生しました。この地震にともなって巨大な津波が発生し、大きな被害をもたらしました。陸上では、揺れによる家屋の倒壊だけでなく、地盤の液状化による被害も深刻でした。さらに、津波によって運ばれた土砂が、土壌や地下水を汚染するという、それまでに考えられないようなこともおきました。こうした地震による災害の連鎖は、実は“地質学”に大きく関係した現象です。私たちは、東日本大震災でなにが起きたのか、また起きつつあるのか、ということ在地質学の目から解き明かし、今後の防災に役立てようとしています。

本展示では、震災後に産総研の地球科学者が行った研究について、産総研地質標本館で行っている特別展示の内容の一部を紹介しています。

※この研究は、平成 23 年度第三次補正予算「巨大地震・津波災害に伴う複合地質リスク評価」によって行われました。